

担任による子どもの困難さの気付きから支援をスタートし、支援の成果について保護者と情報交換を継続した事例です。最初は、保護者からAさんの困難さについての話が聞けませんでした。園で全体の保護者への啓発を行ったり日々の様子を丁寧に伝えたりすることで、子どもの状態について話し合える関係ができ、個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用につながることができました。

<幼児の実態>

- 年中から入園した男の子です。発達障害等の診断は受けていません。
- 活発で自分から積極的に先生や友達に関わろうとします。
- 体を動かすことが好きで、ブランコやジャングルジム、すべり台などでよく遊びます。
- 刺激に敏感に反応し、気になることがあると突然部屋を飛び出すことがあります。
- 友達が遊んでいるおもちゃを突然取り上げるなどの行動が見られます。
- 機嫌を損ねると物を投げたり、友達にあたったりすることがあります。



1. 個別の教育支援計画作成までの経緯

気づき・実態把握

☆担任は行動観察やチェックリストで**実態把握**を行い、保護者に幼稚園での様子を具体的に伝えました。保護者はAさんの行動について余り気にしていませんでした。



- 担任は、入園当初から、Aさんが友達とのトラブルが絶えず、物を投げたり、あたったりすることを心配していました。
- この幼稚園では、例年、愛媛県教育委員会から出されているチェックリストを使用し、全幼児の実態把握をしていました。担任の先生は普段からAさんの行動観察を行うことに加えて、このチェックリストを使って実態把握を行いました。その結果、不注意、多動性、衝動性の傾向があることを認識しました。
- 担任の先生は、幼稚園の出来事をできるだけ、具体的に保護者に伝えるようにしました。しかし、保護者は、Aさんの行動を余り気にしていませんでした。



男の子だから、少々やんちゃな方がいい。  
父親も小さい頃は同じだったみたいだから。



**プチ情報：**チェックリストを利用することにより、子どもの学習や行動のつまずきに早期に気付き、適切な支援に結び付けることができます。その際、チェックリストは、発達障害の有無の判断をするために行うものではなく、子どもの困難さに気付いたり、教職員間で共通理解を図ったりするために行うものであることに留意しておくことが大切です。

保護者の理解に向けての話合い

☆担任は、コーディネーターに相談し、園内委員会で話合いを行うことになりました。園内委員会では、**保護者の理解に向けて**の話合いを行いました。

- 担任は、Aさんの今後の支援について、コーディネーターに相談しました。そして、園内委員会で話し合うことになりました。
- 園内委員会では、担任がAさんの現状について話した後、他の教員からもAさんの園におけるエピソードなどが出され、実態についての共通認識がされました。
- その他、園内委員会の話合いの中で次の点が確認されました。

- ①まず、園内において具体的な支援の手立てを考え実践する。
- ②支援を継続しながら、その都度、園での様子を保護者と情報交換する。その際、Aさんの苦手なところやトラブルだけでなく、支援を行った結果完全したところや、よいところをしっかりと伝える。
- ③全保護者を対象に、特別支援教育についての理解・啓発を進める取組を行う。
- ④保護者の理解が得られたら個別の教育支援計画を作成し、それに基づいて個別の指導計画を作成する。

## 支援の実施と保護者の理解への取組

☆ 担任は**支援を実施**し、園での様子をできるだけ**保護者に具体的に伝える**ことを心掛けました。

- 担任は、園内委員会で話し合った手立てに基づき、支援を実施しました。刺激をできるだけ減らすために教室環境を整備し、活動の前にAさんと約束をして守れたら褒めたり友達との関わりの仲立ちをしたりすることを心掛けました。

次の遊びの時間の約束は「嫌なことがあったら先生に言う。」だよ。

よく守れたね。えらかったよ。がんばり表にシールを貼ろう。



- 担任は、連絡帳を使い、保護者にその日あったことをできるだけ詳しく伝えるとともに、Aさんを迎えに来たときに、その日の出来事について、具体的に話すようにしました。その際、まず、よかったことを話し、その後・支援やその結果について話すよう心掛けました。また、コーディネーターも必要に応じて一緒に話に加わるようにしました。

## 保護者全体への理解・啓発

☆ 幼稚園では、様々な手立てを工夫しながら、特別支援教育についての**保護者全体への理解・啓発**を進めていきました。

- 保護者全体の特別支援教育への理解・啓発を行うための手立てを工夫しました。具体的には、次のような取組を行いました。

- ①入園式の日に合わせてコーディネーターからの特別支援教育についての話、相談窓口としてのコーディネーターの紹介
- ②市が発行している特別支援教育についてのリーフレットの配付
- ③園長からの参観日における特別支援教育についての講話
- ④外部の講師を招いての特別支援教育に関する保護者研修会の実施
- ⑤特別支援教育だより（月1回）の配付

- 上記の取組を進めていくに従って、保護者の特別支援教育に対する理解が進み、何人かの保護者から子どもについての相談が入るようになってきました。相談に対しては、コーディネーターを中心に丁寧に対応していきました。
- Aさんの保護者からは、園での支援についての質問や特別支援教育だよりの内容についての話題が出るようになり、コーディネーターと日常的に話合いができるようになってきました。

## Aさんの保護者との信頼関係の構築

☆ Aさんは園で落ち着いた生活を送れるようになりました。

☆ 園に対して**信頼感**を持ち始めた保護者から**習い事に関する話**がありました。その際、**個別の教育支援計画作成**の提案をし、**同意**を得ることができました。

- 上記の取組を行い、支援を継続することで、Aさんは、園において物を投げたり友達にあたったりする行動が減っていきました。
- Aさんの行動が落ち着くに従って、保護者は安心し、保護者の方から家庭での行動についていろいろな話をしてくれるようになり、その中で習い事についての話がありました。



園では落ち着いてきたと思うんですが、週に2回行っている体操教室では、友達とトラブルがあって困っています。

- 担任とコーディネーターが保護者に体操教室での様子を詳しく聞きました。そこでの困難さを把握したコーディネーターは、関係機関と連携した支援の必要性を感じました。そして、保護者に対して、個別の教育支援計画の作成について提案をしました。
- 幼稚園に対して信頼感を持ち始めていた保護者は、園の提案に同意し、関係者・関係機関が連携しながら共通認識を持って支援することについて希望が出されました。

## 2. 個別の教育支援計画の作成

### 個別の教育支援計画（案）の作成

☆ 願い等の把握や**関係者・関係機関の確認**をした上で、関係者・関係機関より情報収集を行いました。

☆ 担任とコーディネーターは、**保護者と話し合い**、個別の教育支援計画（案）を作成し、**校内委員会**で、検討しました。

1 Aさんと保護者の願いと希望を把握しました。



友達と仲よく遊びたい。

Aさん



保護者

友達とのトラブルをなくしたい。

2 コーディネーターは、保護者と個別の教育支援計画の作成に参画する関係者・関係機関を確認し、体操教室を挙げました。

3 保護者の了承を得て、担任とコーディネーターが体操教室の先生に連絡を取り、様子を聞くことで情報収集を行いました。

4 担任とコーディネーターが保護者と話し合い、個別の教育支援計画（案）を作成しました。

5 園内委員会で個別の教育支援計画（案）について検討し、支援会議に提案しました。

### 支援会議の開催・開催後

☆ 支援会議では、個別の教育支援計画（案）を基に目標等について話し合い、**個別の教育支援計画を作成**しました。

☆ 次回の支援会議において支援に関する**評価を行うことを確認**しました。

☆ 個別の教育支援計画の**保管方法について確認**しました。

- 支援会議では、最初に個別の教育支援計画の趣旨を説明しました。
- 関係者から現在の状況の報告が出されました。
- 個別の教育支援計画（案）を基に、目標や支援内容を話し合い、支援の役割分担をしました。また、体操教室での支援を学校も一緒に考えながら、個別の教育支援計画を作成しました。
- 次回の支援会議の開催時期（新年度初め）と評価を行うことについて確認しました。
- 個人情報の取扱いについて確認しました。
- 個別の教育支援計画は、学校が原本を保管し、保護者、体操教室の先生が写しを保管するようにしました。

<支援会議の参加者>

- ・校内関係者（園長、担任、特別支援教育コーディネーター）
- ・体操教室の先生
- ・保護者



**留意点：**個別の教育支援計画は、指導要録などと同様、個人情報の取扱いは万全を期す必要があります。

## 3. 個別の教育支援計画の活用

### 個別の指導計画の作成

☆ 個別の教育支援計画を受けて、園では、**個別の指導計画**を作成し、支援を行いました。

- 個別の教育支援計画を受けて、担任、コーディネーターが中心となり、個別の指導計画（案）を作成しました。
- 校内委員会で、目標や支援内容等が話し合われ、個別の指導計画を作成し、それに基づいて支援を行うこととなりました。

### 評価

☆ 個別の指導計画は、各学期末に**評価し、見直し**を行いました。  
☆ 個別の教育支援計画は、年度末に**評価**を行い、**見直し**しました。

- 個別の指導計画は、各学期末に評価を行い、その都度、目標や支援の手立ての見直しを行いました。
- 年度末には個別の指導計画の評価を基に、個別の教育支援計画の評価を行い、それを受けて、校内委員会で個別の教育支援計画の見直しが行われました。
- コーディネーターは、各関係者・関係機関にも年度末に評価を依頼し、まとめたものを、次年度始めの支援会議に提出しました。

チームで手立てを考え支援をした結果、Aさんの困難さを軽減することができました。また、保護者と情報交換を継続したことで信頼関係を構築し、個別の教育支援計画の作成につなげることができました。今後は、関係者の連携をさらに図り、Aさんの日常生活における困難さの軽減に努めていきたいと思ひます。